

出羽の山 月山、夏

三年前鳥海山の帰り、『象潟駅』を通過した時ここが、芭蕉で有名な象潟と知り、是非一度立ち寄ってみたい、と、思っていた。今回、月山の帰り、おまけ観光ということで、

実現することになった。その昔、芭蕉が見た『瀉』そして、二百年以上前、このあたりいっただい大地震が来て地面が隆起し現在の風景に変わり。十九島が出来上がったと言われている所を訪ねてみることにした。今夜の宿は象潟の『さんねむ温泉』夏休みだというのに、この日はとても静か。お料理のおいしいホテルだった、翌日貸し切りタクシー（一日2万円）で、時間の許す限り、我々五人のわがままを聞いてもらった。まず、

コンビニで、それぞれ昼食を買う。そして、一番行きたい『獅子ヶ鼻湿原』に出発。途中九十九島の中を走るので、ガイドもおねがいする。『獅子ヶ鼻湿原』は鳥海山の秋田県側山麓中島台「象潟」にある国指定天然記念物になっているそうです。



この森のチャンピオンは『あがりこ大王』です。『森の巨人たち百選』の一つ。樹高

二十五m、幹周り約7mの巨大なブナの木。さすが『大王』と名前が付けられている通り、堂々と構え千手観音のように、たくさんの手を天に向けています。美しい女神のような枝、それを抱え込んでいるような枝。まるで、大王の胸の中で、ダンスをしている様子に、「こんなに美しかったらいいね」

「いやいや、昔はこんなにスマートだったかも」皆、大王の周りをぐるぐる回りながらたのしそうにおしゃべりしています。大王を取り囲み寛いでいます。その他湿原にはブナの原生林、それも、まったく見たことないような奇形ブナがあちこちに見られます。これは江戸時代末期から昭和まで炭焼きのために枝のみを伐採したため、その後、新芽を出し続け、現在の形になったようで、ブナ林の中に昭和

初期に作られた炭焼窯後も残っていた。また、『出つぼ』は、鳥海山の雪解け水が八〇年以上もかかって湧き出ている場所です。皆、水の中に手を入れて「冷たい！」と叫んでいます。とても冷たく手を引つ込めてしまおう、顔を洗いだした人もいます。長い年月をかけて湧き出てくるのですね・孫のその孫の代のお話。そうなれば、本当に自然は大切にしないとイケませんね。

八十年後、放射能の湧水になったら大変。そして、『鳥海まりも』と聞き、丸い球、北海道の『まりも』をイメージして、どこだ、どこだ、と探しましたが、わからず。ガイドによれば、世界的にもめずらしい巨大なカタマリ、緑の苔のついた岩のような塊、そのういえば、座布団ぐらいのものが、浮いていた気がした。

湿原の中は木道が引かれ、よく整備されています。とにかく、涼しい。森林浴に持つてこい。湧水に手を入れると、手がちぎれそうなほど冷たい。小さい頃、湧水でスイカを冷やしたことをおもいだした。「ここに、ビールを入れたいから、いいだろうね。」誰かこっさりビールやスイカを冷やしている地元の人いないかな、きよろきよろ探したり。テレビのニュースで関東地方の気温が三十八、というニュースに、ずっと、ここにいたい、狭い日本、猛暑のニュースもあれば震えあがるほど、涼しい、寒い所があるなんて、本当に不思議です。埼玉に帰って連日三十六度、暑い、同じ日本でどうしてこんなにちがうのでしょうか。

福DM

七月三〇日五名で月山へ出発。月山リフトは一五分。(一五二〇m) 三〇分で姥ヶ岳到着。(二六七〇m) 金姥あたりからキスゲがチラチラと見せてくれるが、相変わらずガスが山肌にしがみついているために展望がない。疲れもジワジワと足腰にひびいてきた。月山頂上小屋(一九八四m) まであと少し、ガスは相変わらず晴れてこない。やっと、山小屋について、まず、ビールで乾杯。その後、風呂で汗を流す。すっきりしたところで、いよいよ一番のお楽しみ夕食。料理はすべて天然、手作り料理。天ぷらはどっさり。こんなにたくさんのお料理、山上でこんな贅沢してよいのだろうか。満足、満足。今日はガスでまったく展望がなかった。鳥海山はどのあたり?

まったく残念。次回を楽しみにしたい。

福DT

第1日: 7月29日「水曜日」

大宮駅↓山形新幹線↓山形駅

↓山交バス↓西川バスストップ

↓西川町営バス↓姥沢下車

(1180m) ↓月山リフト(15

分) ↓リフト上駅(30

分) 姥ヶ岳(1670.3

m) 金姥(1660m)

(30分) 牛首(1700

m) (60分) 月

山頂上小屋(1980m) (泊)

第2日: 7月30日(木曜日)

頂上小屋(6:35) 出発 (80

分) 仏生池小屋

(1740m) (80分)

弥陀ヶ原(1300m) 月山八合目

↓庄内交通バス 9:30 ↓羽黒山

下車・散策 (80分)

庄内交通バス↓鶴岡駅↓羽越本線↓象潟駅(泊)

・月山八合目バス9時30分は

厳しかった。バスの運転手に「後

から来る人がいます。待つてく

ださい。」と、お願いしていたら、

全員到着。よかった。

メンバーが遅れていたら、何

分待つてくれるか聞いてみまし

た。すると、「2,3分ですわね。」

だって。我々が乗り終わると、

バスは出発。我々以外乗客無。

羽黒山まで、誰も乗ってこな

かった。我々がいなかったら、

このバスはカラ、誰もいない状

態で走るのですわ。もったいな

いですね。我々5人で少し赤字

を埋めてあげたのです。いいこ

としました、我々は。

渡B